

パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

10. 厚紙パッケージで威力を発揮〔トキワ印刷〕

これまで、片面4色機、両面8色機、水なし印刷などいくつかのオフセット印刷のパターンでパウダーレスインキ「キレイナ」の素晴らしさを紹介してきたが、その多くが薄紙だった。

今回の(株)トキワ印刷(早川滝徳社長,社員23人,新潟・三条市)は、上越新幹線の燕三条駅から車で10分程度のところにあるパッケージ(紙器)印刷会社である。UV印刷ではなく、厚紙への油性印刷で顧客の要望に答えてきた。

差別化と高級感

同社は、戦後1946(昭和21)年に現社長の祖父が創業した。当初は、帳票類の印刷が多かったと言うが、三条市や燕市は、古くから金物や、包丁や爪切りなど刃物が地場産業として有名な地域だ。それらを箱に入れるパッケージの生産が主流になってきた。現在は、県外からも東京からも、そして大手からも安価なパッケージ印刷が攻めてくる。それに対し同社では、地場の価値ある産物に対し、高級感あるパッケージを提供している。

また、同社は何万通しなどの仕事はほとんどない。数十部からの小ロットや他社が嫌がるような仕事を受けることで差別化を図っている。小型の箱のようなものは、多面付けになる。ロットが1000でも、印刷は一瞬で終わる。

さらに、表面加工(後加工)もさまざまなニーズに対応する。たとえば、最近ではPP(ポリプロピレン)貼りの化粧品の箱が増えたりしているという。表面加工を行うには、スプレーパウダーがないに越したことはない。キレイナの登場だ。

UV印刷にしなかったわけ

紙器パッケージは厚紙が主体なため、刷り本の乾燥待ちに場所をとる、板取りが必要、パウダーの散布量が多いなどの理由で、UV印刷されることが多い。UV印刷は、電気代、UVインキや専用資材が高くつくなどのデメリットはあるが、それ以上に、瞬間硬化により、すぐに次工程にまわせる、蒸着紙など非吸収紙に印刷できる、擦れに強いなどのメリットの方が大きい。

トキワ印刷の今の仕事の9割は厚紙と言うが、それでも同社はUV印刷は導入していない。その理由は明瞭だ。「たんにUVへの設備投資を逃しただけかもしれません」と早川社長は笑うが、油性印刷で十分仕事ができるし、油性インキならではの良さがある。現に、同社は油性印刷でやってきたのである。

すべてキレイナへ

トキワ印刷でもパウダー起因の問題はいろいろあったが、湿し水の量を絞るなどして、パウダーを減らす工夫は凝らしてきたものの、解決には至



まだ板取りをしているが、棒積みが可能になってきた

っていなかった。だが、「キレイナ」の情報が入ってきたことが転機となった。

3月号で紹介した大和写工印刷と懇意にしており、同社から情報を得たりもしながらテストを行い、多くの効果があると踏み、新潟で2番目にキレイナを採用した。

同社は、菊全判4色機と2色機を保有している。現在、4色機では、ほぼ100%キレイナで印刷している。5色、6色印刷の場合は、4色機で2度通しなどを行う。2色機はOPニスなどにも使用している。

キレイナを採用してパウダーの散布量は3分の1に減った。印刷面にパウダーが少ないため追い刷りはとても楽になった。以前は、先刷りのパウダーが2度刷り目の初胴のブランケットに堆積したり、ひどい場合は初胴で粉取りをすることもあったが、キレイナにしてこの問題はほぼなくなったという。機械を停止してのブランケット洗浄が不要になり、作業性が大幅に向上した。

特色に関しては、社内調色している。従来の他社のインキでCCM(コンピューター・カラー・マッチング)を構築しており、色調違いからほかのインキに変えることはなかなか難しい。現状は、プロセス4色と特色、スミベタと特色の組み合わせはキレイナと従来インキを一度に使っている。「(特色も)まったく同じ色になれば、早くすべて

のインキをキレイナにしたい」(早川社長)という。

キレイナにしての挑戦

キレイナに採用している特殊樹脂は、印刷直後にインキ表面をサラッと改質し、セット乾燥を促進するが、コートボールなど厚紙にも同じように働く。「スミベタのあとの乾き具合がまったく違った」(早川社長)とキレイナの特長を実感している。絵柄にもよるが、以前は印刷後、一晩は寝かせていたという。実は、現在も工程的な変化はない。ただし、急ぎの仕事になった場合などは、すぐに次工程にまわすことができ、キレイナの実力が発揮される。

また、厚紙でも板をはずして棒積みできれば、印刷時間はもっと短縮される。

早川社長はキレイナでも棒積みは難しいと言うが、「挑戦していく価値はある」と診ている。

※ ※ ※

周知のとおり、世に出る商品は中身が主役であり、パッケージは脇役だ。しかし、その役割は大きい。トキワ印刷は、商品(中身)を売るにはどうするか、パッケージの視点から顧客の相談に乗り、社内できないものは仲間の企業と協力しながら、あるときは紙でなくても、また貼り箱なども提案して、顧客の要望に答えている企業である。

(つづく)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワン KIREINA」誕生。

キレイナ印刷
キレイナ加工
キレイナ機械
キレイナ工場

T&K TOKA

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>
TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577